2022年度の事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

NPO法人 Sharing Caring Culture

1　事業の成果

■外国人の子育て支援事業：外国籍家族の子育て情報支援ほか、日本文化を知る機会を提供

昨年に続き、今年度も都筑区子育て支援拠点ポポラと共催で多文化子育ておしゃべり会を実施したほか、多文化親子交流会を年間15回開催。特に日本の行事や童謡などを子どもに伝えることが難しい外国出身の家族向けに日本文化を伝えるパネルシアターや読み聞かせを英語とやさしい日本語で提供し、お正月、節分、ひな祭りなどの季節の行事をテーマに親子で日本文化に親しむ機会をつくった。また、AEDや自宅でできる応急処置について、緊急時に慌てないためにも慣れておく必要があると考えて、日本赤十字社の協力のもと、トレーナーによる講習会を3回実施。当日は、育児休暇中の看護士のサポーターが通訳を務め、外国人の母親だけでなく、父親も意欲的に参加する講習会となった。

■子どもの育成支援事業：コミュニティイベントの実施

コロナ感染者拡大の時期は、対面でのイベント実施が厳しい状態ではあったものの、徐々にイベントの開催頻度を上げ、参加者の親子が他の参加者親子と対面で話をしたり、一緒に手を動かしたりする中で、繋がりやコミュニティへの関わりが高まるようなイベントを年間6回実施。パルシステム神奈川による市民活動団体支援金を使用させて頂き、資金的にも恵まれた状態で開催ができた。また、廃材で遊び場をつくるイベントを開催した時には、パルシステム神奈川とコラボ衣服交換会を共催し、50名の子どもたちが参加する大型イベントになった。メイドインつづきの協力の元、工場からの廃材をご提供いただいたほか、港北みなもには会場を、そして港北みなものテナント各所からも段ボールを頂き、地域企業との連携によってコミュニティイベントが実現。当日は、外国籍児童と日本人児童がチームになって、言葉を超えてともに廃材を使いながら自分たちの理想の家をつくる活動に取り組む姿を見ることができて、クリエイティブなアート活動は、多様な人たちを包摂する力があるとアートの力と可能性を感じた。

■マンスリー継続寄付者募集キャンペーンの実施により、36名が寄付会員に

コロナ禍を経て、安定的な運営基盤をつくるために今年度、運営面で取り組んだのは、継続的な寄付を集め、団体運営を資金面で支えるファンドレイジングの仕組みづくりだった。寄付プラットホーム「シンカブル」にて、継続寄付者を30名募集するキャンペーンを9月30日～11月6日に実施。目標を超える36名のマンスリーサポーターを集めた。12月10日には、寄付会員への御礼とコミュニケーション促進を目的として、SCCの会員が集い、対話する「感謝の集い」のオンラインイベントを日本ファンドレイジング協会主催の寄付月間賛同企画として実施。「寄付をする」、「寄付をいただく」という関係で終わらず、当団体の活動を支援する大切な会員として、寄付者も含むSCC会員コミュニティのフェイスブックグループを立ち上げ、日頃の活動の様子を報告したり、コメントをいただいたりするようにした。寄付者だった方が、その後、賛助会員として活動するようになるなど、より強く関わってくださり、寄付というきっかけを活かしながら、寄付者とのコミュニケーションを今後も図っていく。

■多文化共生協働事業：グローバル対応へのコンサルテーション及び通訳・翻訳依頼の増加

コロナ禍前に実施していた東京都内の図書館での英語のおはなし会など、10月以降に再開できるようになり、今年度は、品川区立大井図書館、南大井図書館、中野区立中野東図書館で英語のおはなし会を実施、また横浜市青葉区の山内図書館でも開催。その他、外部委託事業として、神奈川県立地球市民かながわプラザにて、タイ出身のメンバーによる子ども向けのタイ文化のイベントを実施し、企画運営を担った。また、認定NPO法人あっとほーむに通う学童児童が外国籍家族向けに日本の小学校で知っておきたいことを伝えるプロジェクトに協力。外国人メンバーとその子ども

が親子で学童を訪問し、交流をする中で外国人在住者が抱える課題を子どもたちが理解する機会をつくった。対面でのイベント実施が回復傾向にあると同時に、外国人在住者向けの広報ができていない施設や団体から英語とやさしい日本語での告知、イベント申し込みのフォームやリーフレット、紹介動画の英語字幕翻訳、音声ナレーションなど多岐に渡る依頼を頂き、団体内でクリエイティブチームを編成。クリエイティブチームメンバーを中心に和文英訳、英語母語者による校正チェック等を行った。1月には、都筑区内の緑道ツアーへの通訳同行の委託を受け、バイリンガルメンバーがコミュニケーションの架け橋となった。

2　事業内容

特定非営利活動に係る事業

(1) 異文化交流事業

ア 外国籍の子育て支援事業

・内　　容

アイネット地域振興財団による助成事業として外国出身のファシリテーターと育児休暇中の日本人保育士が英語とやさしい日本語で進行する多文化親子交流会を開催。日本の行事や童謡を知らない外国人の保護者向けに日本文化を中心に紹介。パネルシアターなど、外国人親子が参加しやすい活動を行なった。また、都筑区子育て支援拠点ポポラとの共催により、外国人家族向けに多文化おしゃべり会や外国出身者による母国の文化展示及びトーク（チルコロギャラリー）を実施。日本赤十字の協力により、外国人家族向けのＡＥＤ講習会を英語通訳つきで実施。

・実施日時　親子交流会　年間 15 回 / 多文化おしゃべり会（共催）年間３回 / チルコロギャラリー、ギャラリートーク　年間２回 / AED 講習会　年間３回

・実施場所　主に横浜市青葉区（アートフォーラムあざみ野子どもの部屋、山内地区センター、たまプラーザ地域ケアプラザ）、都筑区（子育て支援拠点ポポラ、ポポラサテライト、都筑 MY プラザ）

・従事者数　５人

・受益対象者　未就学児を育てている外国籍の親子及び日本人親子　のべ親子 173 人参加

・支　　出　304,306 円

↑未就学児向けの親子交流会

↑　ＡＥＤ講習会

イ 子どもの育成支援事業

・内　　容

パルシステム神奈川による市民活動団体支援金により、子どもの多文化理解を促進する事業として、イースター、ハロウィン、パキスタン料理親子クッキング、タイの子どもの遊び、お正月のしめ縄飾りづくりを実施。主に外国人主婦が講師となり、子どもたちが多文化にふれる機会をつくった。また、アート活動を通して、地域の子どもたちが国籍を超えてつながるきっかけづくりとして、廃材で遊び場をつくるコミュニティイベントを実施。コロナ感染症対策として、都筑区役所の後援をいただき、公園を会場にしたり、２部制で人数を分けたりしながらも、一つのイベントで計

50 名程度の子どもが参加するイベントもあった。
・実 施 日 時　年間 6 回
・実 施 場 所　主に横浜市都筑区（都筑中央公園、仲町台地区センター、大塚歳勝土遺跡公園、都筑 MY プラザ）
・従 事 者 数　9 人
・受益対象者　外国籍の親子及び日本人親子　のべ親子 257 人参加
・支　　　出　370,538 円

↑ハロウィーンでお菓子をもらう子どもたち

↑パキスタン料理親子クッキング

(2) 地域の多様な主体が連携・協働する多文化共生促進事業

ア　外国籍住民による子育て情報冊子 OYACO(おやこ)制作事業

・内　　　容
2022 年 3 月末に横浜市多文化共生市民活動補助事業の補助金にて外国籍家族向けの子育て情報冊子を出版し、4 月から対象地域の横浜市北部 4 区（青葉区、都筑区、緑区、港北区）で配布を開始。各区のこども家庭支援課を訪問したところ、都筑区、港北区、緑区で外国籍の母子手帳交付時に冊子配布が決定。青葉区では、戸籍課で外国人登録の際に配布。都筑区では外国人向けの情報支援のウェルカムキットにも同封が決定。英語対応が難しい窓口スタッフがやさしい日本語版の冊子を見ながら英語版を外国人に提示し、横浜市の保育、幼稚園制度の説明ができるのが良いという言葉をいただいた。英語版 3,000 部、やさしい日本語版 1,000 部を発行したが、日本語版が在庫を切らし、さらに 1,000 部を増刷することに。増刷にあたって印刷費の予算がない中、継続寄付者からの寄付によって印刷費を調達した。
・実 施 日 時　通年
・実 施 場 所　主に横浜市青葉区、都筑区、緑区、港北区のこども家庭支援課窓口、戸籍課窓口、子育て支援拠点、国際交流ラウンジ及びラウンジ内の日本語教室
・従 事 者 数　4 人
・受益対象者　未就学児を育てている外国籍の親子及び日本人親子　5,000 部を配布
・支　　　出　67,280 円

↑都筑区の外国人在住者向け情報支援ウェルカムキットに子育て情報冊子 OYACO （おやこ）を同封

イ 多文化共生協働事業

・内　　容

今年度は、外国出身者を講師とした図書館での英語の読み聞かせや子ども向けの異文化交流企画運営の依頼のほか、将来、保育士や幼稚園教諭を目指す大学生向けに外国出身のメンバーが日本での子育てについてオンラインで話をする機会を東洋大学ライフデザイン学部よりいただいた。また、横浜市民ギャラリーあざみ野が通年で開催している未就学児向けの親子でフリーゾーンのイベントに外国人在住者の家族も参加できるよう、英語とやさしい日本語でのチラシや申し込みフォーム作成及びコンサルテーションの依頼があり、通訳・翻訳一式を請負った。結果、これまで日本語がわからず、申し込みをためらっていた外国人親子が参加するようになり、外国人の参加率が高まったと担当者が話していた。3 月には、災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわより「災害時の外国人支援について学び つながろう」のオンライン学習会に登壇依頼をいただき、当団体が子育て支援拠点と共催した外国人のための防災ワークショップの事例を外国人メンバーとともに紹介した。

・実 施 日 時　年間 16 回

・実 施 場 所　神奈川県立地球市民プラザ（あーすプラザ）、山内図書館（横浜市青葉区）、認定 NPO 法人あっとほーむ（横浜市都筑区）、子育て支援拠点ポポラ、ポポラサテライト（横浜市都筑区）、中野東図書館（東京都中野区）、大井図書館（東京都品川区）、南大井図書館（東京都品川区）、横浜市民ギャラリーあざみ野（横浜市青葉区）、NPO 法人 I Love つづき（横浜市都筑区）、NPO 法人あしおとでつながろうプロジェクト（神奈川県鎌倉市）、東洋大学ライフデザイン学部（オンライン会議室 Zoom）、横浜市市民協働推進センター（横浜市中区）

・従 事 者 数　12 人

・受益対象者　市内、県内外の児童、一般市民など　のべ 653 人

NPO、図書館、大学など　のべ 12 団体

・支　　出　576,468 円

↑品川区南大井図書館での英語のおはなし会

↑東洋大学ライフデザイン学部　外国人の子育て講話

ウ外国人在住者のスキルシェア事業

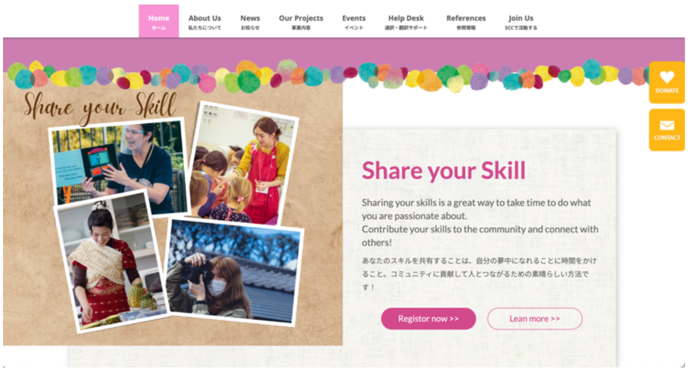
・内　　容

今年度、LUSH チャリティバンク助成を頂き、ホームページのリニューアル及び団体リーフレットの改訂を行った。ホームページの改修にあたって、ウェブデザイナーも同席の上、対面で外国籍の当事者へのヒアリングの場を設け、団体のホームページでの使いづらい点や情報収集に関する率直な意見をいただいた。利用者だからこそ伝えられる貴重な意見やアイディアが得られた。また、この改修によって、2 つの新たなコンテンツを組み込んだ。一つ目は、当団体が外国出身者のスキルを活かすプラットフォームになるよう、Share your Skill というページを設定。育児中であっても子育て冊子の編集やブログ記事の発信、翻訳など在宅でできることがある上、外国人であってもその人

の得意なことで地域貢献ができることから、ボランティアという呼びかけではない窓口を設けた。二つ目は、Help Desk の案内ページから、SCC のボランティアが LINE で投稿者の質問に答える場を設定した。また、現在、団体の活動に関わっているメンバーによるブログなども発信できるように Feature Story というコーナーを設けた。外国人在住者の社会参加を促進し、地域での活躍が伝わるようなホームページへとリニューアルすることができた。

・実 施 日 時　通年
・実 施 場 所　アートフォーラムあざみ野、山内地区センター
・従 事 者 数　6 人
・受益対象者
・支　　　出　769,544 円

↑ウェブサイトリニューアルのためのヒアリング会
（外国籍の利用者への聴き取りを実施）



↑改修後のホームページ（メニューバーに英語と日本語を表記）